

年長組「なんでだろう？ わかった！ を伝えるように発表しよう」

～話し合い、折り合いながら幼児たちの気づき・発想の広がり大切に探究活動～

年長組

かせい組 22名 (男児11名・女児11名) 教諭K 5年目

もくせい組 21名 (男児10名・女児11名) 教諭L28年目

どせい組 21名 (男児11名・女児10名) 教諭M11年目

年長組フリー教諭N26年目

【すくわくプログラム開始以前の 年長組かくれんぼの実態】

4月16日「かくれんぼ(園庭・自由遊び)」

進級に喜びを感じる中で、新クラス、新しい人間関係に緊張を感じている幼児もいましたが、自由遊び時の園庭で、年中組が先におこなっていた「かくれんぼ(自由遊び・年中組教師を含む)」に参加する様子がありました。それは、双方の学年の幼児にとって、ルールに則っていれば互いの関係性に大きく影響されないため、仲間に加わりやすかったのだと思われます。その中で年長組の幼児は経験を生かして、おにの決め方やあいまいになるルールの確認において年中組をリードする姿もありました。

4月以降「かくれんぼ(園庭・自由遊び)」

園庭で自分たちの遊びがふと途切れた時に、他学年のかくれんぼに加わったり、自分たちで誘い合って始めたりする姿が見られていました。遊び自体のドキドキ感とルールが共通になりやすい安心感があいまって、例年のように根強い人気の遊びとして暑い時期を除いて時々出現していました。

年長組では、「かくれんぼ遊びにおける幼児の探究活動やその展開」をグループで取り組みで、同学年、年中組へクイズ出題をするにあたり、次のように探究活動の計画をしました。

【年長組グループで取り組む活動展開予定】

- 1) かくれんぼの経験を生かし「自分の好きな場所・物など」をデジカメで撮影する
- 2) デジカメの画像を使って気づきを発表し、グループ・学級で共有し合う
- 3) クイズを出題する相手を思い浮かべて難易度などを考え合う
- 4) デジカメやプロジェクターを使って相手に伝えるようにクイズを出題する

年長組では上記「4)」に向けて展開するにあたり、まず、「1)」幼児が扱ったことのないデジカメに触れ、撮影してみる経験を取り入れることから始めました。

導入として、どの学級もかくれんぼなどの経験を通し、年少組や年中組よりも園庭のすみずみまで知っている学年であることを踏まえ、園庭で「自分の好きな場所・物」などを撮影することを促してから行いました。

その後は、年長組4月より学年として力を入れて行ってきたグループ活動での話し合いの経験をもとに、グループ・学級単位で話し合い・共有をしながら「2) 3)」へとつなげていきました。

かせい組)「なんでなんで会議 から なんでなんでクイズ への展開」

○1月20日「初めてデジカメで撮影 (学級活動・園庭)」

かくれんぼなどの経験を通して知っている園庭の中から、好きな遊具、場所、植物、景色、気になるものなど2枚を撮影し発表し合うことを伝えてから行いました。

幼児たちの自由に撮影したものを通して、幼稚園のおすすめスポットの作成や、この場所からこんな景色、形に見えるなどのクイズなどを作ることを考えていたが、予想外に「疑問に思うこと」を撮影する幼児の姿がたくさん見られました。

○1月21日「撮影した画像を iPad を使用して共有 (学級活動・保育室)」

撮影した画像を iPad で表示しながら「どこを撮影したのか、なぜ撮影したのか」などを発表し合う場を設けたところ、「なぜ郵便ポストがあるのか」、「なぜさまざまな植物があるのか、いつからあるのか」など、幼児たちが疑問に思うことがたくさん挙がってきました。

かせい組ではそれらの「なんで？」を大切にしながら話し合いを進めた結果、幼児たちからの提案により「なんでなんで会議」を立ち上げることとなりました。

○1月22日「なんでなんで会議 (グループ活動・保育室)」

「なんで？」のテーマに沿って、いくつか調べるものを決め、一緒に調べたい幼児でグループを作り、どのように調べるか話し合うことになりました。

植物を中心に、図鑑や本などで調べることを予想していましたが、発表を通して撮影したものは幼稚園が建つ前からあるのか、いつからあるのか、なぜあるのかなど、歴史的な分野を調べたい声が多く挙がった結果が次の通りです。

- ・「郵便ポストがなぜあるのか」調べる…2グループ
- ・「木に鳥の巣のようなものがなぜあるのか」調べる…2グループ
- ・「植物」を調べる…1グループ

このように、同じ目的をもつ幼児でグループ作成をし、どのように調べるか話し合ったところ、昔からいる先生に聞くという意見がどのグループからも挙がり、園長先生、教頭先生、たけひろ先生にインタビューすることになりました。

○1月22日「なんでなんでインタビュー事前準備 (グループ活動・保育室)」

インタビューをするために、事前に自分たちで画用紙に、聞きたいことや知りたいことをそれぞれのグループで話し合っまとめてみました。

インタビューの答えを自分たちでも予想してみたり、インタビューする人やカメラマンをやる人を決めたりもする姿も見られました。

初めての活動で、聞きたいことや役割をまとめることに保育者の援助が必要と考えていましたが、これまでの話し合いの経験を生かしてどんどんそれぞれのグループで進めていくことができていました。



○1月24日「なんでなんでインタビューと結果発表（グループ活動・園長室/園庭）」

各グループが園長先生やたけひろ先生の部屋にインタビューをしにいったところ、先生方から「なんで？」の現地に行っておこなうことを提案してもらい、それぞれの役割通りインタビューをすることができました。

幼児たちの「なんで？」という思いを大事に進めてきた中で、インタビュー現場で事前に考えていた項目にはない質問が浮かんだ幼児が、「ここ（インタビュー内容を描いた画用紙）には書いていないことでも、聞いてもいいですか？」と相手の先生に伝え、さらなるインタビューをする姿も見られました。

その後、グループごとに分かったことを発表し合う中で、「そうなんだ！」「知らなかった！」と、他グループの発表に驚いたり、自分たちで調べられた達成感を感じたりしていました。



○2月4日「なんでなんでインタビューの振り返り（学級活動・保育室）」

1月24日の欠席児に活動内容を共有することも兼ねて、前回、インタビューを通してわかったことを再度発表し合い、みんなで思い出しながら、やってみてどうだったかについても発表し合う場面を設けました。

すると、「楽しかった」の一言ではなく、「謎が解けてスッキリした！」、「自分たちで分かって嬉しかった」と達成感を感じられる言葉が多く聞かれました。

○2月10日「幼稚園のみんなに共有しよう（学級活動・保育室）」

学級みんなで話し合い、教師の助言をもとにクイズ形式で他学級・他学年にも伝えることに決定しました。

自分たちで調べたことを他学年に伝えたい幼児も多かったが、中には、「年長組だからこそ自分たちで調べて楽しかった」この経験を、他学年には年長組になってからの楽しみとして内緒にしておくのはいかがでしょうかという意見もありました。

○2月17日「グループ内で2つに絞ってクイズを出そう（グループ活動・保育室）」

土橋先生の助言を踏まえ、出題相手を思い浮かべながら、インタビューで分かったことの中から2つに絞り、そこからクイズ作りをする話し合いをおこないました。

すると、相手のことを慮り、さまざまなアイデアを出し合いながら内容を2つに絞り、クイズの出し方を考えたり、工夫したりする姿（3択・ヒント・写真など）につなげることができました。



○2月27日「なんでなんでクイズ（学級活動・昇降室）」

学級みんなで話し合い、できたクイズは「かせいのなんでなんでクイズ」という名前にし、全学年が見られるように昇降室に貼ることに決めました。

すると、外遊びや降園時など友達や見ている年中組、年少組に嬉しそうに話しかけ、

問題を読んであげたり、解説をしたりする姿が早速見られていました。



○3月13日「最後まで貼っておきたい！（学級活動・昇降室から保育室へ）」

しばらく昇降室に掲示していた「かせいのなんでなんでクイズ」を保育証書授与式の準備のため一度はがすことを提案しました。長い期間、貼り出していたので満足できたと思い、話はスムーズに進むと思っていましたが、「最後(卒園)まで貼っておきたい！」という予想に反する意見がほとんどでした。

その気持ちを大切に、かせい組の保育室に移動して卒園まで掲示することにしたところ、学級みんなが納得しました。



終わりに、今回の探究活動において、幼児たちが主体的になるよう、教師の思いが強くなり過ぎていないか、常に考えながらの日々でした。しかし、最後に「みんなで作ったものだから最後まで貼っておいてほしい」と、幼児たちが自分たちで調べて、作り上げ、達成感が味わえたからこそ出てくる気持ちで、教師にぶつかってきてくれたことから、幼児たち自身の大きな学びへと繋げることができたのではないかと考えています。

もくせい組)「寒い場所で氷はできる? から 氷を知ろう への展開」

○2月4日「寒い場所で氷を作ろう」(学級/グループ活動・園庭)」

暖冬の中にもようやく寒い日となってきたため、幼児たちと氷ができるかもしれないという話となり、学級で氷作りをおこなうことにしました。

作る容器についていろいろな意見が出て、そこから「卵パック」「牛乳パック」「風船」の3つに絞り、グループごとに実験する内容を話し合い、卵パックで水の量・水の色(色水)、牛乳パックの水の量、風船の中の水・空気の量、それぞれに変化をつけて試してみることになりました。

また、かくれんぼなどの経験から知っている園庭の寒い場所を、1月にデジカメで撮影して作成した園庭マップを見ながらグループで考え合い、多目的室の階段下、砂場水道の下、園庭の暗いところなどに設置しました。



○2月5日「改善策で氷を作ろう!」(学級活動・園庭/保育室)」

朝、昨日設置した場所を確認しにいったところ、氷はできていませんでした。

しかし、実際に設置した容器とその中の水(色水)の様子を見て、触って、他グループと比較をし合い、「昨日置いた時よりも水が冷たかった」「水道下と階段下では冷たさが違う」「もっと暗いところの方がよいのでは?」など、気づいたことや考えたことを伝え合う姿が見られました。

そこで、幼児たちの気づきをまとめて共有し合い(模造紙にまとめて掲示し視覚的にも共有し合い)、再度同じグループで改善策を相談し、「水の量を少なくする」「場所を変える」など、チャレンジすることになりました。

○2月6日「水のままだ! どのくらい寒ければ氷になるの?」(学級活動・園庭/保育室)」

朝、昨日設置した場所を確認しにいったところ、氷はできていませんでした。

しかし、昨日と比較して水が冷たいと感じるということで、氷にならなかったことを残念がりながらも前向きに、「じゃあ、どのくらい寒かったら水は氷になるんだろう?」とクラスで疑問がもちあがりました。また、「冷凍庫では氷になるのに…」「マイナス25℃くらいじゃない?」など、知識やイベントでの経験を発表する幼児もいました。

その後、園庭で一番寒いところはどこかを探していた幼児たちの中に、「風が吹くところが寒いのでは?」「太陽から一番離れたところがよいのでは?」という気づきもあり、前向きに考えを出し合いながら、次回チャレンジする場所を決めていました。

土橋先生より、幼児たちの関心や知識を広げるためには、「人に聞いてみる」ということも方法の一つという助言をいただき、幼児たちに「家の人に聞いてみる」ことも働きかけてきていたところ、後日、「家で銀のお皿で薄く水を入れて外に置いたら氷ができた!」「お父さんが前に、濡れたタオルを夜に干していたら凍ったんだって!」という情報を得てきた声もあがり、次回、寒くなる予報の時にクラスでも試してみることにしました。

しかし、そのチャレンジをした2月18日から19日にかけても、氷になるには至りませんでした。しかし、幼児たちは残念がりながらも次々に登園してくる友達にそのこ

とを伝え、「昨日の夜はそんなに寒くなかったからかたまる時間が短かったんじゃない?」、「もっとタオルをびちゃびちゃにすればよいのでは?」など考えを巡らせ合っていました。

○2月6日「本当の氷で遊ぼう! (グループ活動・保育室)」

①氷をグループで触ったり、観察したりしました。すると、触っているうちに、「なんで氷ってとけるの?」「手でこすったらとけてきた!なんで?」、また、よく観察すると、「氷の中が白いよ!なんで?」などと、幼児たちからたくさんの「なんで?」が生まれてきました。

②「氷を1個そのまま保育室に置いていたらどのくらいでとけるか」をグループで予想をしました。それぞれ、35分、1時間、2時間と予想しましたが、実際にはすっかりとけるのに2時間15分かかり驚いていました。

③「たこ糸に何(そのまま・ソース・塩)をつけたら氷が釣れるかゲーム」をグループでやってみました。すると、予想を立てながら3パターンを試し、ソースでなかなかつれなくても「長くつけていたらつれるかも」、また、塩でつれなくても「塩を増やしてみたら?…つれた!」、また、塩でつれても、「なんで塩をすけると氷がつくんだらう?」と、予想や疑問をいろいろに口にしながら試行していました。

そして、「氷と塩と一緒に手をつないでいるみたいだからじゃない?」「水がついた塩がのりみたいにくっついたからかな?」という考えが幼児たちからあがりました。

後日、幼児たちと本やiPadなどで調べたところ、次のことがわかりました。

- ・「水は0℃より寒くなると氷になる」
- ・「寒い場所は風が通るところで、太陽が当たらないところがよい」
- ・「氷の中が白いのは空気がかたまっているから」

○2月25日~27日「もくせいチャンネルを作ろう (グループ活動・保育室)」

氷作りや関連した活動を動画にする「もくせいチャンネル」作りを行いました。

まず、グループで何について発表するか、そして、方法と役割分担などを相談していきましました。これまでの経験から意見を言うだけでなく、聞いたり受け入れ合ったりしながら取り組みました。

中にはこだわりや強い主張で進まなくなるグループもありましたが、援助を受けながらなぜそうしたいと思ったのかという他児の思いにも気づき、受け入れようとする姿も見られました。



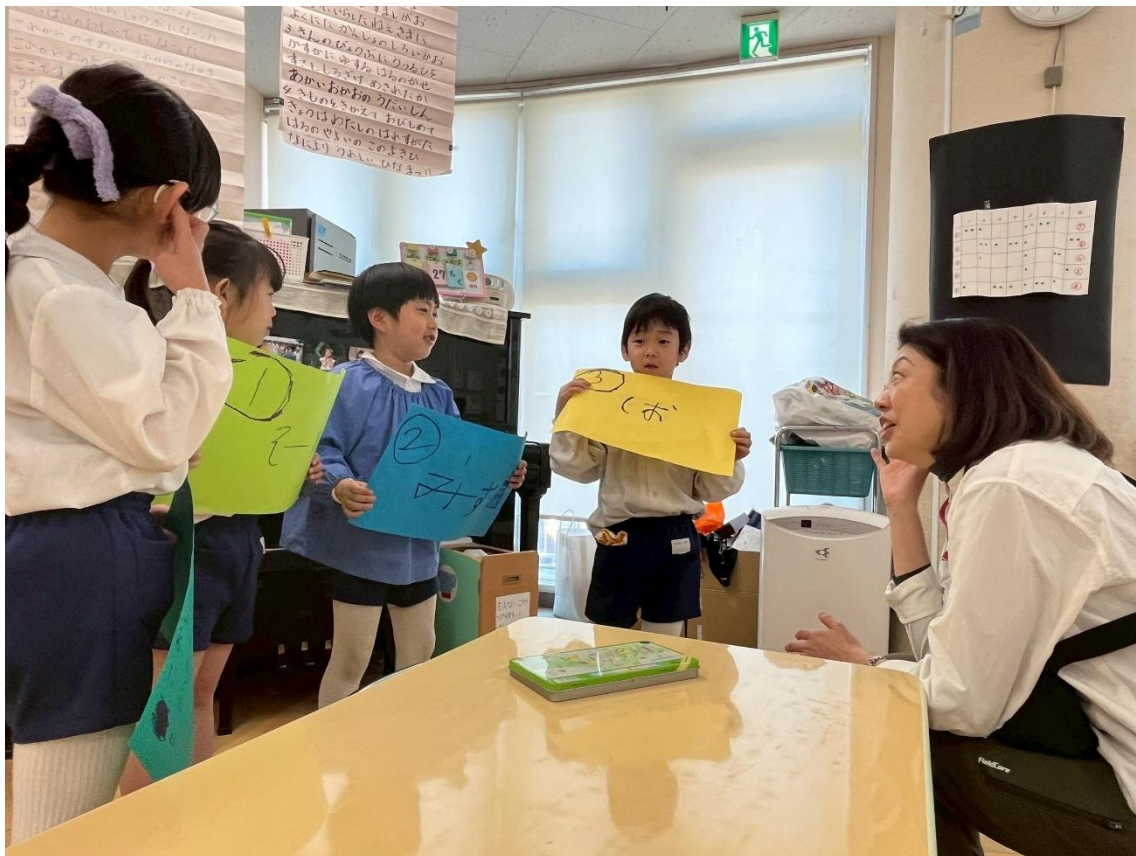
2日目には、さらにアイディアや考えが出る中で、「できた!」となったグループから試し撮り(※)を始めました。

※土橋先生からの助言を踏まえ、普段見たり聞いたりする機会のない「自分が話をしている姿や声」を動画を通して見たり聞いたりすることで、自分自身がどう見えているか、どう聞こえているかを知り、次の発表に「ここはよかった」「ここはもっとこうしよう」などと生かせるようにと実施しました。

教師が見ると、「声が小さいな…」、「もっとこうするといいのにな…」と思うところはコメントせず、そのグループの幼児たちに動画を見せると、自分たちで「声が小さいよ!」と気づき、そこから、グループで「声を大きくしよう」と決めたり、作ったパネルは「見えるように持った方がよいのでは」など、動画を見ての気づきや意見を受け

入れ合って、改善しようとしていました。

中には、主張を譲れず援助を要した幼児もいましたが、徐々に他児も黙ったままではなく、意見を伝え始めたことで、それに耳を傾けたり、譲ったりするようになってきました。



3日目には、昨日の動画を見ての振り返りを生かし、率先して練習をしているグループもある中で、全グループの撮影を終えることができました。

当初は強い主張をしていた幼児が、「今日はけんかしないで仲良くできたよ！」と笑顔で報告してくるなど、どのグループも自分たちで折り合いをつけて、動画を見る人にわかりやすく「氷」について伝えようという同じ目的に向かって活動することができました。

終わりに、氷が一度もできなかった中でも試行錯誤を繰り返しながら前向きに取り組み続けられたこと、また、グループ内での話し合いを通して主張の強い幼児は自分の意見ばかりでなく、控えめな幼児もしっかりと自分の思いを話しながら、相手の気持ちやよさを認めようとする気持ちをもって友達とかかわろうとする姿が増えたことに、大きな成長を感じました。この経験を就学しても大事にしていってほしいと思います。また、自分自身の学びとしても、今後に活かしていきたいと考えています。

どせい組)「場所クイズ から 視点を変えた見え方クイズ への展開」

○1月17日「初めてデジカメで撮影」(学級活動・園庭)」

かくれんぼなどの経験を通して知っている園庭の中から、好きな場所、もの、景色を撮影したところ、自分がよく遊ぶ場所、お気に入りの場所からの景色など、それぞれの視点で写すことができました。

○1月20日「どこから何を写したかクイズ～iPadに表示して～(学級活動・保育室)」

幼児たちが撮影した画像を iPad で表示しながら発表し、「どこから何を写したか」を当て合うクイズをおこないました。

すると、似た写真でも写っている物の高さが違うことで、撮影した場所の違いに気づくなど、それぞれの画像をよく見て、考えて、よい気づきがたくさんありました。また、「次は他の場所にしよう」「もっと難しくしよう」など、期待感や好奇心を高めていたため、次につなげていくこととしました。

○1月21日～23日「幼稚園クイズ作りをしよう (グループ活動・保育室/園庭)」

前日の幼児たちの思いを踏まえ、4グループにわかれて、3つの園庭のクイズを考えたり、見つけたり、話し合ったりし、そのクイズに必要な写真を撮りに行きました。

これまでの経験から、それぞれ意見を出し合ったり、聞き合ったりと、楽しみながら取り組みました。

中には、名前の知らない植物をクイズにしたことから、出題するからには自分たちが答えを知る必要があることに気づき、図鑑などで調べて答えを知り、新たな学びを得ているグループもありました。



また、翌日から2日かけて、撮った写真を使い、グループごとに模造紙に好きなように貼ったりクイズを書いたりしながら、形にしていきました。

その中で、グループの友達と相談したり、役割分担したりしながら進めていきましたが、中には勝手に進める幼児の姿もあり、グループごとに一つずつのクイズ作りに意識を向けられるよう援助をしていきました。

すると、それぞれ考えを出し合い、工夫しながら楽しんで取り組み、最後までみんなでやり遂げる喜びを味わうことができました。

○1月28日「幼稚園クイズの発表をしよう (学級/グループ活動・保育室)」

幼稚園クイズの発表をおこないました。

発表の仕方もグループで相談し、主体的に進めることができました。聞いている幼児たちも意欲的にクイズに参加する姿が見られました。

この経験から、今まであることが当たり前だった物や植物も細かい部分に気づいたり、興味をもったりすることができました。また、他グループで出た場所を実際に見つけてみようとする興味の広がりも見られました。



このように、学びを共有することが、他児への学びにもつながっていく姿を目の当たりにして、今回の経験を、これからや次回の取り組みにも生かしていくこととしました。

○2月25日～26日「かたちクイズ作りをしよう（グループ活動・保育室/園庭）」

「幼稚園クイズ」の経験を踏まえ、第二弾として、かたちクイズづくりをスタートしました。

幼稚園クイズの取り組みの中で、幼児たちが気づいた「同じ物でも、違う場所から撮影すると違う高さに写る」という気づきから着想を得たもので、まず、「見る場所、角度によって形が変わるもの」を4グループで考えたり、探したりしました。

前回と同じグループということもあり、比較的スムーズに話し合いを進めていました。



中には自分本位さが目立つ幼児の姿がありましたが、話し合いの中で折り合いをつけていかれるよう援助を続けながら進めてきたところ、どのグループも身近ないろいろな形のことを考えさまざまな角度から撮影できていました。

次は、土橋先生の助言を踏まえ、グループ内でさらに折り合いをつける経験を重ねられるよう、撮影した中から2つに絞り、出題の仕方も変えていくこととしました。

翌日には、グループ考えて撮った3つの画像を、相談して2つに絞り、出題に向けて役割分担を決める話し合いをおこないました。

頑なに譲ろうとしない幼児がいるグループの話し合いが進まなくなることもありましたが、「そう思う理由」も一緒に話せるよう促していくと、他児の理由を聞いたことで最後には、周りの意見に耳を貸したり、飲み込んだりすることもでき、よい経験となりました。また、それぞれが役割分担、出題の予行なども行い、当日に出題、共有することへの期待感を高めていました。

○2月27日「かたちクイズ大会をしよう（学級/グループ活動・保育室）」



デジカメの画像を iPad からプロジェクターにつなぎ、画像を壁に大きく映し出ししながら形クイズの発表をおこないました。

各グループとも、昨日の予行の成果もあり、幼児たちが中心となって進めることができました。答える側もよく考えながら、自由帳に示されたかたちを書いてみる姿が見られ、それが正解でも間違えでも、まず考えてみることで学びを深められていました。

発表全体を通して、○のかたちが多かったなど、クイズを通して新たな気づきもあり、楽しみながらもさまざまな学びのある活動となりました。

○2月28日「かたちクイズ大会を振り返ろう（学級活動・保育室）」

土橋先生の助言を踏まえ、普段見たり聞いたりする機会のない「自分が話している姿や声」を動画を通して見たり聞いたりする機会として、前日のかたちクイズ大会の動画鑑賞会をおこないました。

本来は予行の姿を撮影し、大会当日前にグループ単位で行う計画でしたが、今回は他の予定との折り合いがつかず、事後の振り返りの場面での実施となりました。

鑑賞後に意見を発表し合う機会を設けたところ、友達のよいところに目を向け、認め合うことを大切に積み重ねてきていたこともあり、動画での自分や友達の姿についても各々がよいところを見ようとしていることがわかりました。

そのため、「よりよくするならば」という教師の問いかけをしたところ、「もっと声が大きいといい」、「ふざけたりふらふらしない方がいい」、という気づきにはつながったようでした。

終わりに、土橋先生に参観、指導、助言をしていただき、探究活動が「一緒に活動を進めていく仲間の意見にも関心もち、知ろうとし、自分の意見と折り合いをつけ合って進めていく」というプロセスの中で、相手のことを「考える」ということにも含まれていることを知り、目からうろこが落ちるようでした。

また、活動全体を通し幼児たち自身で考え、話し合っ決めてたり、クイズの進行をしたりと、やり遂げたことでの満足感を味わっていることが伝わってきていました。今回の学びや探求心を、就学後の自ら学ぶ力にもつなげていってもらいたいと考えています。